

製品名: FGFR2 (18K11) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe10945**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IP 1:10-1:100
分子量	92kDa

抗原情報

遺伝子名	FGFR2
別名	FGFR-2; K-sam; KGFR; CD332; FGFR2; BEK; KGFR; KSAM;
遺伝子 ID	2263.0
SwissProt ID	P21802
免疫原	ヒト FGFR2 の合成ペプチド

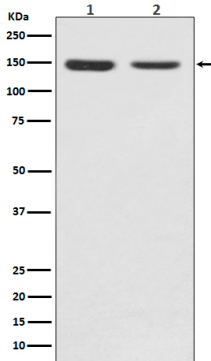
背景

線維芽細胞増殖因子 (FGF) は、細胞表面受容体チロシンキナーゼを介してシグナルを伝達することで、標的細胞に有糸分裂促進作用と血管新生作用をもたらします。酸性および塩基性線維芽細胞増殖因子の受容体です。線維芽細胞増殖因子の細胞表面受容体として機能するチロシンタンパク質キナーゼは、細胞の増殖、分化、遊走、アポトーシスの調節、および胚発生の調節に重要な役割を果たしています。正常な胚パターン形成、栄養膜機能、肢芽の発達、肺の形態形成、骨形成、皮膚の発達に必要です。骨芽細胞の分化、増殖、アポトーシスの調節に重要な役割を果たしており、正常な骨格の発達に必要です。ケラチノサイトと未熟骨芽細胞の細胞増殖を促進しますが、分化した骨芽細胞のアポトーシスを促進します。PLCG1、FRS2、および PAK4 をリン酸化します。リガンド結合は、複数のシグナル伝達カスケードの活性化につながる。PLCG1 の活性化は、細胞シグナル伝達分子であるジアシルグリセロールとイノシトール 1,4,5-トリスリン酸の産生につながる。FRS2 のリン酸化は、GRB2、GAB1、PIK3R1、SOS1 のリクルートを誘発し、RAS、MAPK1/ERK2、MAPK3/ERK1、MAP キナーゼシグナル伝達経路、および AKT1 シグナル伝達経路の活性化を媒介する。FGFR2 シグナル伝達は、ユビキチン化、インターナリゼーション、分解によってダウンレギュレーションされる。恒常的なキナーゼ活性化につながる変異、または正常な FGFR2 の成熟、インターナリゼーション、分解を阻害する変異は、異常なシグナル伝達につながる。FGFR2 の過剰発現は、STAT1 の活性化を促進する。

研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;エンドサイトーシス;アクチンと細胞骨格を調節する;がんにおける経路;前立腺がん;

画像データ



(1) MCF-7 細胞溶解物、(2) マウス脳溶解物における FGFR2 発現のウエスタンブロット解析。